

池田湖

池田湖は九州最大のカルデラ湖である。その深海には天然記念物のオオウナギが生息し、伝説によればイッシーと呼ばれる巨大な怪物がいるという。

この湖は、約 5700 年前の一連の火山噴火によって形成された。この噴火によってできた深いクレーターは淡水で満たされ、やがて周囲約 15 キロ、最大水深 233 メートルの湖が形成された。地元の言い伝えによると、この水には不思議な生き物が住んでいるという。池田湖に住む龍神の話は 1800 年代初頭まで遡る。1900 年代半ばになると、人々は黒くて大きな獣が高速で湖を泳いでいるのを目撃したと主張し始めた。その生き物は、ネス湖の有名な暗号生物ネッシーにちなんで「イッシー」と名付けられた。

池田湖では龍も蛇もイッシーの決定的な証拠も見つかっていないが、池田湖には紛れもなく生息しているモンスターがいる。それは巨大なうなぎである。この熱帯性のうなぎは体長 1.8 メートル、体重 20 キロにもなる。日本最大のウナギとして指宿市の天然記念物に指定されている。

池田湖は、ウォータースポーツ、ジョギング、サイクリング、そして怪獣狩り（怪獣好きにはたまら

ない) など、アウトドア・アクティビティに人気のスポットだ。湖畔にはコスモス、ポピー、パンジー、ひまわり、ベゴニアなど色とりどりの花が一年中咲いている。1 月には、岸辺に黄色い絨毯を敷き詰めた菜の花畑を見るために、自然愛好家や写真家が指宿を訪れる。